

⚠️ マンション・アパートにお住いの皆様へ ⚠️

1日に約30件 誰かの家で 火事が起きています!

1年間の住宅火災件数

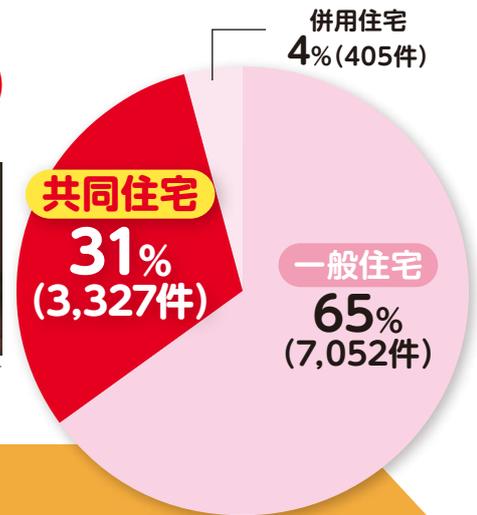
10,784件 (放火を除く)

住宅火災の死者数 / 899人 (放火自殺者等を除く)

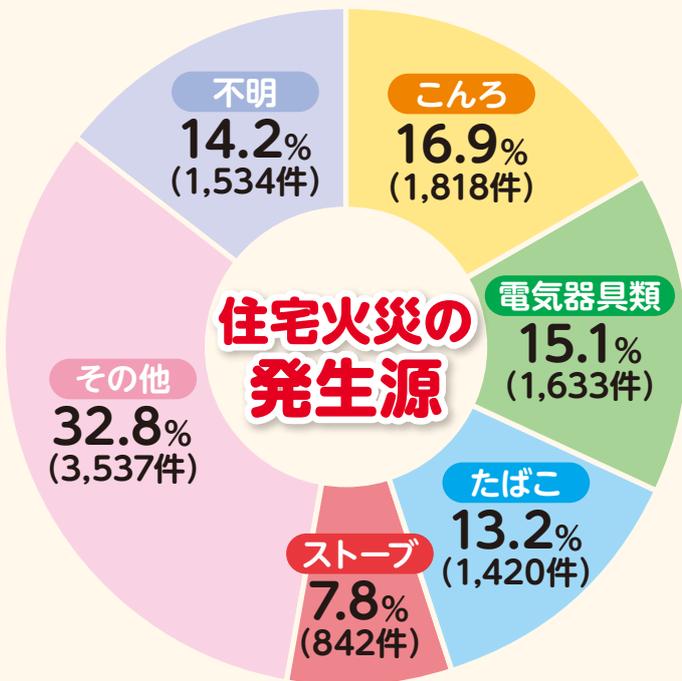
出典: 令和元年における火災の状況 総務省消防庁 (全国値)



© 2004 Studio Ghibli・NDDMT



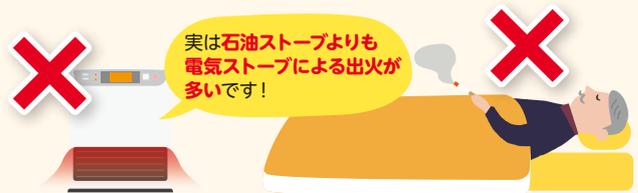
火災を防ぐために



住宅火災の発生源

就寝時の火災は命の危険!

就寝中は火災に気づきにくいので、避難が遅れて命の危険があります。就寝時は絶対に「ストーブを消す」、「寝たばこをしない」を徹底しましょう。



こんろ火災を防ぐための4か条

- 1 調理中は絶対にその場を離れない
- 2 離れるときは火を消す
- 3 着衣着火に注意
- 4 コンロの周りに燃える物は置かない



© 2004 Studio Ghibli・NDDMT

あなたのモバイルバッテリーは大丈夫?

チェック!

いろいろな電気製品に使われている「リチウムイオン電池」からの出火が増えています。

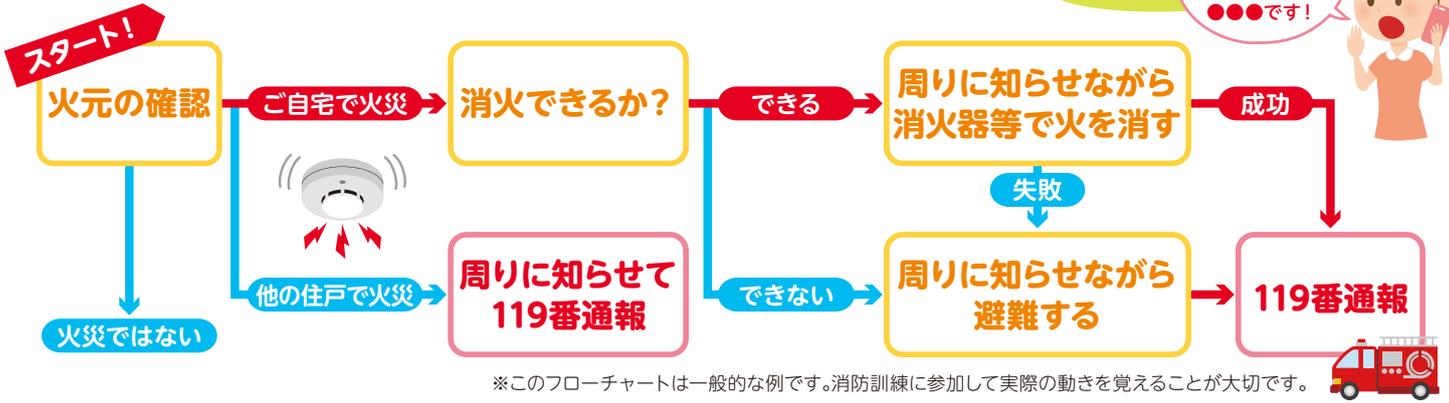
- ストーブの近くや直射日光が当たる場所等に放置しない
- 強い衝撃を与えない
- 指定された充電器以外は使用しない
- 膨張、異臭、発熱等の異常があれば使用をやめる

火災が起きたら



もし火災警報器(音声やベル・サイレン音)が鳴ったら…

まずは落ち着いて火災かどうかを確認しましょう!



消火する

ご自身の住戸から最も近い消火器の場所と使用方法を確認しておきましょう!

消火できるかどうかは
「煙が充満していないか(火元が視認できるか)」「炎が自分の背丈よりも小さいかどうか」を目安に判断しましょう。

周りに知らせる



大きな声で**「火事だー」**と叫びましょう。気づいた家族や近隣住民に消火や通報の協力を依頼します。

避難する

火災の拡大を防ぐために**避難後は玄関の扉を締めましょう**。玄関からの避難が難しい場合は、バルコニーの隔て板を蹴り壊して隣の住戸から避難するか、避難器具が設置されていれば使用して避難します。地上まで避難できない場合は煙を避けられる場所で助けを呼びます。

119番通報する

落ち着いて**「火事であること」「建物住所」「近くの目標」「火災の状況」**などを伝えましょう。

ワンポイント

バルコニーは火災時に有効な避難経路(避難場所)となりますので、日頃から不要な物を置かないようにしましょう。

火災を防ぐための防火・防災製品

防災品

燃えにくい加工が施されたもので、カーテンやブラインド、じゅうたん、寝具など様々な商品があり、火災の拡大を抑えることができます。(11階建て以上の建物で使用する場合カーテンは防災品を使用することが消防法で定められています。)



センサー付きガスコンロ

平成20年4月以降に製造されたガスコンロには、「Siセンサー(調理油の過熱防止や煮こぼれ時・一定時間経過後に自動的にガスを止める機能)」が付いています。このセンサーが付いていないコンロを使用している場合には、交換をお勧めします。



お問い合わせやご相談は最寄りの消防署にご連絡ください。

中央消防署(予防課) 043-202-1617

若葉消防署(予防課) 043-237-8041

花見川消防署(予防課) 043-259-2571

緑消防署(予防課) 043-292-6147

稲毛消防署(予防課) 043-284-5144

美浜消防署(予防課) 043-279-0196

もっと詳しく知りたい方は、「火災から命を守る 住宅防火読本」(一般財団法人日本防火・防災協会発行)をご参照ください ▶



千葉市消防局